

令和7年度の改善方策について実行した改善結果

令和7年度の重点目標に関する改善方策の結果についてご報告いたします。

印：目標達成

印：昨年度比増

印：注意

重点目標1 確かな学力の向上を図る教育の推進

◎「わかる授業」を展開するとともに、家庭学習習慣の確立を目指す。

<数値による指標> 学校関係者評価アンケート、生徒アンケート、各学力調査等を分析し検証を行う。

【具現化のための方策】

- ・教員による「相互授業観察」「生徒による授業アンケート」（7月・12月に実施）の分析を実施し、主体的対話的で深い学びに向けた授業改善を行い、「わかる授業」を創り上げる。
- ・「生徒自らが学ぶ授業」の実践のために、問題解決的な学習、体験的な学習を進める。また、家庭学習について、各自の学力にあった課題に取り組みせることで、学習成果の実感を生徒にもたせ、より主体的な学びに向かう姿勢を育む。

【改善結果】

		目標	1年	2年 (1年次)	3年 (2年次)	計 (昨年)
①	一人一人に学力が身につく授業が行われている。(生徒)	80%以上	81	80 (72)	71 (76)	76% (93%)
②	先生は、課題について自分で考えたり、友達と考えたりする時間を取っている。(生徒)	85%以上	84	80 (83)	89 (93)	87% (71%)
③	宿題や課題などが適切に出され、家庭学習が充実するよう工夫されている。(生徒)	80%以上	76	71 (87)	84 (64)	77% (69%)
	宿題や課題などが適切に出され、家庭学習が充実するよう工夫されている。(保護者)	80%以上	31	40 (52)	45 (25)	38% (57%)
④	家庭学習が定着しつつある。(生徒)	80%以上	72	55 (73)	73 (53)	67% (71%)
	家庭学習が定着しつつある。(保護者)	80%以上	39	41 (54)	39 (27)	39% (55%)

※①②について生徒は、各学年とも比較的高い数値を示している。①については、目標の数値の前後にある状態で、来年度は上回る割合を高める必要がある。今年度は授業規律及び基礎学力の定着に課題が確認されたため、来年度はその一層の充実を図る改善を加える。

②については、主体的・対話的で深い学びの視点が徐々に各教科で取り入れられていることが、数値に表れてきている。来年度もICTを効果的に活用しつつ、主体的・対話的で深い学びの充実を図っていく。

※③④の家庭学習に関連する項目については昨年度に引き続き、本校で注力している取組である。家庭学習のやり方の説明及び授業内でICT機器を活用して家庭学習の提示等の工夫を行っている。しかし、家庭学習の定着に関しては、生徒、保護者ともに数値が低くなっている。来年度は、年度当初に全校生徒に対して、各教科ご

とに家庭学習の進め方のレクチャーを実施していく。

【教員アンケート結果】①②については高い数値を示したものの、③④は保護者と同等の低い数値を示した。上述の通り、一層踏み込んだ指導を行う必要がある。

重点目標2 生徒の主体的に取り組む力の育成

◎生徒が主体として取り組む学校行事の実践

<数値による指標> 学校関係者評価アンケート、生徒アンケート、各学力調査等を分析し検証を行う。

【具現化のための方策】

- ・生徒会活動や部活動においては、生徒一人一人に自治的能力や責任感、忍耐力を身に付けさせ、技術や技能を高めさせる。そして、仲間と強調し、協力してやり遂げる充足感を味わわせ、社会性や協調性を身につけさせる。
- ・地域行事やボランティア活動への参加を推奨し、伝統文化継承や防災教育など、地域に根差した教育を充実させる。また、学校協議会及び学校運営委員会を活性化させるとともに、PTA 役員をはじめとする保護者や 地域の方々の教育活動への積極的な参加を推し進め、地域教育力の一層の向上を目指す。

【改善結果】

		目標	1年	2年 (1年次)	3年 (2年次)	計 (昨年)
①	学校行事は達成感がある。(生徒)	85%以上	88	85 (79)	93 (92)	89% (89%)
	学校行事は達成感がある。(保護者)	85%以上	88	85 (85)	92 (87)	88% (88%)
②	部活動は達成感がある。(生徒)	85%以上	80	79 (84)	73 (83)	78% (80%)
	部活動は達成感がある。(保護者)	85%以上	63	70 (64)	80 (68)	76% (70%)
③	「大志の学び舎」の活動及びボランティア活動は、小学校との適切な交流がなされている。(生徒)	80%以上	87	90 (62)	85 (64)	87% (67%)
④	相手の意見を聴きながら、自分の意見を伝える力が身につけている。(生徒)	80%以上	85	81 (81)	91 (81)	85% (84%)

※①については、生徒・保護者とも目標を達成し、その達成度は概ね昨年度並みであった。今年度は世田谷区内一斉に土曜授業が原則なくなり、学校行事の実施の仕方に変更を加えた箇所が多々あったが、そのような中でも肯定的評価が高かったことは、学校の工夫に一定の評価が与えられた結果だと分析できる。

※②については、生徒・保護者ともに目標を下回った。本校は小規模校であり、部活動数が少ないこと、また活動日数も比較的少ないこと等が理由として考えられるが、学校の特性として今以上に部活動数を増やしたり活動日数を増やしたりすることは困難である。生徒・保護者に今のやり方に関して理解を得るよう説明の機会を設けるように努める。

※③④については、概ね目標値を達成することができた。③については、地域のボランティア活動に生徒が積極的に参加している現状があり、本校の生徒の主体性が特に感じられる項目である。来年度も引き続き生徒の積極的な参加を促す。④についても、引き続き授業中あるいは日々のかかわりの中で、生徒が他者の意見に耳を

傾けたり自身の主張をはっきりと言えるような環境を整えていく。

【教員アンケート結果】①②③は生徒・保護者以上に高い数値を示したものの、④については半数以上の教員が否定的見解を示した。教員は、相手の意見を聴きながら、自分の意見を伝える場面をより意図的に創出することが求められる。

重点目標3 自他を大切に作る心の育成

◎全教職員が生徒一人一人の個性や能力、特性、生活状況などを把握し、丁寧で適切な指導や支援を徹底する。

◎社会を生き抜く力を身に付ける。

<数値による指標> 学校関係者評価アンケート、生徒アンケート、各学力調査等を分析し検証を行う。

【具体化のための方策】

- ・担任や学年を越えて、地域や保護者も含め、複数の目で生徒を見守ることで、一人一人を大切に作る教育を進め、様々な人との出会いで豊かな心の育成、思いやりのある心を育てる。
- ・様々な活動に主体的に取り組みせ、困難なことに直面しても自分で考え、また人の助けを借りて乗り越えていく力を身に付けさせる。
- ・自分で考え判断し取り組みさせる中で自己肯定感や自己有用感を養う。

【改善結果】

		目標	1年	2年 (1年次)	3年 (2年次)	計(昨年)
①	学校生活は楽しい。(生徒)	90%以上	90	87 (81)	93 (93)	90% (90)
②	先生たちは、生徒に丁寧に指導している。 (生徒)	80%以上	84	92 (90)	89 (83)	88% (82%)
	先生たちは、生徒に丁寧に指導している。 (保護者)	80%以上	73	70 (69)	64 (64)	70% (73)
③	様々な活動に主体的に取り組み、困難なことに直面しても自分で考え、また人の助けを借りて乗り越えていく力を身に付けている。(生徒)	80%以上	86	82 (77)	91 (79)	87% (83%)

※①については、概ね目標にあった結果が得られた。来年度も、生徒が有意義な学校生活を送ることで、自己肯定感・自己有用感を高められる環境を整備していく。

※②については、生徒については目標以上の回答結果が得られたが、保護者の回答は目標を下回っており、生徒と保護者の受け止め方に乖離が見られた。来年度も引き続き、教育相談をはじめ、自殺予防やいじめ等の未然防止、SOSの出し方等について、丁寧に指導を続けていくとともに、ホームページや保護者へのお便り等で学校での実践の伝えていくよう一層努める。

※③については、困難なことに直面しても自分で考えたり、他人の助けを借りて乗り越えようとしたりするたくましさがあると、生徒自身が比較的高く自己評価をしていることが分かる結果となった。この力は、これからの社会を生き抜く重要な力と言われている力であるため、引き続き学校として組織的に育成するよう努める。

【教員アンケート結果】①②については高い数値を示し、教員が丁寧に指導していることや、そのこともあって生徒が楽しく学校生活を送っていることを把握していることが分かった。③については生徒ほど高い数値とならず、教員が生徒により困難を乗り越える力を身に付けてほしいと願っていることが分かった。